



河井 敬久 先生

略歴

1889年 広島大学歯学部卒業 (DDS)
1993年 大阪大学歯学部大学院 口腔治療学講座 卒業 (PhD)
1993年 Forsyth 研究所 免疫学講座 ポストドクター
1999年 Forsyth 研究所 免疫学講座 Assistant Member of Staff
2001年 Harvard 歯学部 口腔生物学講座 インストラクター
2004年 Forsyth 研究所 免疫学講座 Associate Member of Staff
2009年 Forsyth 研究所 免疫学講座 Senior Member of Staff
2012年 Forsyth 研究所 口腔免疫学感染学講座 講座長
2014年 三重大学医学部, 分子病理学細胞接着講座, 客員教授
2015年 大阪大学 Global Alumni Fellow
2016年 Nova Southeastern 大学, 細胞治療センター, 主任研究員
2016年 Nova Southeastern 大学, 歯学部, 歯周病講座, 教授
2020年 Nova Southeastern 大学, 歯学部, 口腔基礎研究講座, 講座長

COVID-パンデミックから歯周病治療と研究の将来を考える

Nova Southeastern 大学歯学部口腔基礎研究講座 講座長
河井 敬久

2019年暮れに中国で発生したSARS Cov2ウイルスの感染によって引き起こされる新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) はあっという間に全世界に広がり, 2020年6月2日現在その感染者は600万人を超えました。ワクチンが全市民に接種されるか, もしくは40-60%の市民が集団免疫を獲得するまで, COVID-19のパンデミックは収まらないと想定されています。現在のところ, 最も感染が広がったアメリカですら総人口当たり0.5%しかSARS Cov2に感染していません。MARSやHIVのワクチン開発が未だ成功していないことからSARS Cov2のワクチンへの過剰な期待に我々は欺かれかねず, 人類は長くSARS Cov2ウイルスと長く付き合っていくとかならない (NIAID Director, Dr. Fauci) ようです。1980年代に血液を介して感染するHIVが日本でも報告され始めたときには, 歯科診療従事者を恐怖に陥れ, 歯科診療における感染予防のシステムを根本から変えました。無症状感染者が20-30%も存在し, 唾液で伝播するSARS Cov2はさらに歯科診療における感染予防システムをさらに変えそうです。アメリカでは外出禁止令が解かれる中, 民間の歯科医院や大学が試行錯誤で, 効果的な歯科診療の感染予防システムを新たに構築しようとしています。

日本人がCOVID-19の罹患率が低いことが話題になっていますが, アメリカでは黒人の感染及び死亡率が白人の2倍です。このような人種別にみられる罹患率の違いが, HLAなどの遺伝形質の違いなのか, 経済的な生活環境の違いなのか, 議論されています。SARS Cov2の宿主細胞の受容体であるACE2の発現が舌や口腔粘膜に多いことや, SARS Cov2濃度が唾液中に高いことから, 歯科の臨床と研究の現場にはSARS Cov2感染のメカニズムを解明し, その予防抑制法を確立する研究に格好の条件が備わっています。科学技術が目覚ましく進歩するなか, それを取り巻く自然界の変化もそれ同等のスピードとパワーで起こっています。Ebola感染症が5年前に出たときにBill Gatesはパンデミックに対する意識改革と準備の必要性を説いていましたが, 誰も耳を傾けようとしませんでした。COVID-19よりも致死率の高いパンデミックが10年以内にやってくる可能性は非常に高いようです。10年先を見据えて, 歯周病の臨床や研究に携わるものが何に焦点を当て, どう行動すべきか深く考えさせられることから, COVID-19から得られた教訓はとて大きなものだと思います。

Webセミナーでは, 1) アメリカでのCOVID-19のパンデミックの現状, 2) 歯科診療における新しい感染予防システム構築, 3) SARS Cov2の歯周病および口腔疾患への影響, 4) 10年先を想定した歯周病及び歯科研究の必要性, 5) 河井研究室の現状, を紹介する予定です。(研究サポートNIH Grants: DE027851, DE030016, DE028715。利益相反なし)